

# 酪農学園大学

第72号 1994年10月15日

発行 学校法人 酪農学園

酪農学園大学・大学院

北海道文理科短期大学

とわの森三愛高等学校

北海道江別市文京台緑町582

TEL(011)386-1111(代)

FAX(011)386-1214



## 学園風景の歴史：白樺通り

開学当初の、酪農学園短期大学校舎へのアプローチは、牧草を突っ切る泥んこ道でしかなかった。初期の学生と教員達は、数年かけて、細い枝ほどの白樺の並木を、皆んなで一本一本植えた。それが四〇年後の現在では、北海道の並木百選にも入る立派な並木道となって、テレビのロケにも利用されるロマン溢れる風物の一つになった。

※酪農学園短期大学（現北海道文理科短期大学）

### 聖句

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。  
その中で最も大いなるものは、愛である。

（コリントの信徒への手紙一 一三章一三節）



## 酪農学園に望む

江別市長  
酪農学園顧問  
岡 英雄

昭和一七年、野幌機農学校として現在地に開校されて以来、酪農学園が江別市の近代的都市への発展と轍を一つにして発展されていくことは、誠に同慶の至りであります。

酪農学園は、本来の使命である学術研究の推進と優れた人材の養成などの教育面はもちろんのこと、

地域活動などの面においても大きな役割を果たされるとともに、江別市のイメージの形成にも大きく貢献されております。特に緑豊かな

広大なキャンパスは、江別をイメージするときには誰もが思い浮かべる象徴的な景色でもあり、緑豊かな街づくりを進める江別市が誇るべき空間でもあります。江別市は、文教都市として集積された教

育・研究施設に加え、四季のみち・グリーンモール・公共施設デザインなど、都市としての景観要素を加味した新しい諸施策により、都市空間における視覚的快適指数が年々向上していると思われま

す。これら快適環境の面的拡大の推進に酪農学園キャンパスは欠かすことのできない空間となっております。多くの市民が貴キャンパスに愛着を持っていることをご理解いただき、今後とも、その維持に努めていただくことを期待しております。

江別市は本年、市制施行四〇周年を迎えるとともに、「江別市新総合計画」の後期一〇ヶ年計画の策定を進めております。本計画は、

道央圏における本格都市として一五万都市を展望した、二一世紀にふさわしいまちを創造するための指針であります。本計画の施策の一つに大学との連携を考えております。都市の知的ストック、雰

気を求めて多彩な人材が集まり、新しいビジネスや文化が生まれま

す。その貴重な都市資源が大学であります。江別市には、私立大学三校、私立短期大学二校、専修学

校二校、各種学校三校があり、全国規模の教育・文化機能を担うとともに、本市の教育、文化の向上に寄与してきました。これら

大学等に学ぶ学生は、一二、五〇〇人を超え、都市に清新な息吹と躍動を与えております。また、教育環境と学術研究機能の

水準は、高いレベルにあり、道内に誇る文教都市としての役割を果たしています。このような環境の中で各大学では、時代の

進展や社会経済の変化に先駆的に対応するために学術研究の推進と優れた人材の育成のほか、新たな学部・学科を創設するなど教育環境の整備を進めております。これら大学等の人材・研究機能を市民生活や地場産業など市民レベルに還元していくため、産・学・官の情報交換・交流を通じて大学等の連携の促進に努める必要があると考えております。

酪農学園は、今年、食品流通学

科を新設されました。ご承知のように北海道は食料基地として多大な期待がかけられています。食品関連産業が基幹産業として地域経済を支えているところからも、食品流通に関する研究の推進とこの分野の人材育成が急がれており、



産業、第三次産業に通じる新たな研究開発が進められるならば、江別市にとってかけがえのない力になると確信しております。

国道一二号の酪農学園前にはレングによる素晴らしいバス停留所があります。江別市では、まちの個性の表現の一つとして明治以来からの歴史あるレングの活用を進めております。市民が愛着と誇りを

感じできるまちづくりには、個性の創出が必要であり、その個性は、そのまちの歴史や文化を土台とすることが重要であると考えているからです。これは、学園の発展に

においても同じ事が言えるかと思

ます。酪農学園は、創立者・黒澤西蔵先生が唱えられた三愛精神のもと、健士健民、実学教育を理念として、今日まで社会に貢献する

多くの若者の育成に努められるとともに、酪農を基盤とした関連産業の発展に寄与してこられました。この精神と理想を生かした教育、人づくりが学園の歴史と文化であり、貴重な個性と考えられます。

今後とも、お互いに益々魅力ある個性づくりを進め、全国にキラリと光る存在を目指しましょう。

と光る存在を目指しましょう。

## ▲国道12号線沿「酪農学園前」バス停留所



# 退任ご挨拶

酪農学園監事 菊地正一



方向に改められたのを契機に、その存続をかけて戦後最大と言われ、大きな変革が試みられており、酪農学園もまた鋭意改革に取り組まれております。

そうした中で私学経営における監事の職責を思うとき、私は既に高齡、ふさわしい清新な人材との交替を望んだ次第であります。

これからは身分は学園を離れませんが、教育に管理運営に日夜労苦される役職員の皆様と、学園を学舎とする学生生徒諸君の上にご恩寵を祈り、そして建学の理想に向かつて個性と魅力溢れる学園づくりに一層のご研鑽を祈って止みません。

顧みて学園との長い関りの中で、昭和四二年招かれて大阪から着任した常務時代の一〇年は、それ迄とは畑の違う教育事業の経営であり、しかも学園紛争、労組運動など最も盛んな時代、学園もその例外ではなく、また脆弱な財政や管

理運営の改善など、私にはすべてが手探りの新しい経験でありました。従って苦勞はありましたが、今にして思えば多様な経験の機会をもつことができ、生涯の思い出に多くを加えることが出来たのは幸いであり、それが私に備えられた道であつたと感謝をしております。

共にした労苦の中から多くの交わりを今に与えられていることは学園で得た大きな財産と感謝しております。

最後になりましたが、不肖の私を学園に招いて下さった黒澤西藏先生、佐藤貢先生より賜りましたご寛容とご指導に心から感謝を申し上げます。ご挨拶を終わらせて戴きます。

## 第三回酪農学園

### 教職員研修会開催

去る九月三〇日、教職員が黒澤記念講堂に会し、第三回酪農学園教職員研修会が開催された。

今回は、東北学院大学教授で同大学カウンセリング・センター所長である土戸清先生を講師に招き「人間教育とカウンセリングのこころ」と題し、学生生徒のもつ恵まれた賜物をどの様に引き出せる

か、また色々な悩みや相談をどの様にして受け止められるかについて熱心に講演が進められた。

## 人事発令

### 酪農学園大学

△新任(九四・八・一)

教授 吉野 知男

△新任(九四・一〇・一)

教授 林 正信

### 学園行事日程(六ヶ月九月)

六月二、三、四

江別市民教養講座

二五日(大・短)ホームカミングデー

(大学) 学位記授与式

二五、二六日(大・短) 白樺祭

七月六日(大学)フイリピン・アブラ

州知事来学

八、一〇日(高校) 学校祭

一一日(大・短) 開学記念日

八月一、二日(大学) 理科実験講座

一一、一七日

職員夏期一斉休暇

一〇、一六日(高校) "

一八、九月八日

石狩町民公開講座

九月二、三、四日(高校)

収穫感謝祭

三〇日酪農学園教職員研修会

## 訃報

元理事 早坂正吉殿

(享年八三才)

早坂正吉先生(元・北海道農業協同組合中央会会長)には、去る八月二一日ご逝去されました。本学園の発展に多大なご尽力を賜りましたことに深く感謝し、学園役員及び教職員一同、謹んで哀惜の意を表すると共に、ご冥福をお祈りいたします。

元常務理事 濱本恒男殿

(享年六八才)

濱本恒男殿には、去る九月二四日ご逝去されました。本学園の発展に多大なご尽力を賜りましたことに深く感謝し、学園役員及び教職員一同、謹んで哀惜の意を表すると共に、ご冥福をお祈りいたします。

現評議員 大原久友殿

(享年八一才)

大原久友先生(元・帯広畜産大学学長)には、去る九月二五日ご逝去されました。本学園の発展に多大なご尽力を賜りましたことに深く感謝し、学園役員及び教職員一同、謹んで哀惜の意を表すると共に、ご冥福をお祈りいたします。



酪農学園大学  
北海道文理科短期大学  
教務部入試課  
TEL 011-386-1111 内線 2045～2047

## 酪農学園大学

## 大学院

北海道文理科  
短期大学

## とわの森二愛高等学校

### 今年度の入試結果

一九九二年度を境に始まった一八歳人口減少期の中、今年度、本学大学・短期大学の志願者数は全体で七、三六五名となり、前年度志願者数七、一三六名に対して僅かではあるが、三％の増加となった。

内訳は、大学が前年度志願者数五、八三一名に対して、今年度六、一七一名の六％増となり、特に、食品科学科は一四％増と大幅に志願者を増やした。

また、今年度四月に新設した食品流通学科も初年度ではあるが、四三八名の志願者を集めており、昨年一二月に設置認可がおりた関係上、推薦入試を別日程で行い、例年より入学試験の機会が一度多かったことも大学全体の志願者増に繋がったと考えられる。

一方、短期大学は、前年度志願者数一、三〇五名に対して、今年度は、一、一九四名と、九％の減少となった。

酪農科は、対前年度比八％増であったが、教養学科・経営情報学科の二学科がそれぞれ、一二％減・一六％減と大きく志願者を減らした。

全国的にも志願者を増やした私立大学・

大学推薦入試では、従来行ってきた一般公募制推薦入試に

加え、新たに、「産業振興特別推薦入試」を実施する。これは大学の各学科に関連の深い高校職業科の生徒を別枠で選抜する制度である。酪農学科・農業経済学科は農業または水産製造に関する学科を対象とし、農業後継予定者には特別措置を設ける。食品科学科は食品製造または水産製造に関する学科を対象とする。食品流通学科は商業または農業に関する学科を対象とする。なお、獣医学科は産業動物獣医師志望者を対象とした選抜を行う。

一般学力入試では、食品流通学科の試験科目が昨年度の二科目受験から選択一科目受験に変更され、合わせて、高校時代の成績を点数化して、その合計点による選抜を行う。

また、第一期学力入試では大学・短期大学とも、地方試験会場を帯広と盛岡に新たに設置し、従来からある東京・大阪・福岡・本学会場を含めて全十六会場で受験できるようになった。

### 編入学

今年、本学短期大学より多くの学生が大学へ編入しており、今年度も四二名が合格している。来年度は新たに食品流通学科二年目への編入枠が設けられ、従来からある酪農学科・農業経済学科の二年目、三年目編入、食品科学科の二年目編入と合わせて、より一層多くの意欲ある学生の進学が期待される。

本学では毎年、学生募集活動の一環として全国各地の入試相談会に参加しており、今年も道内・道外合わせて、六〇会場を回った。その中で面接する受験生から「知り合いの獣医

### 指定校推薦

本校の特色の第一は、酪農学園大学・北海道文理科短期大学と直結していて、指定校推薦、一般推薦、農業後継者推薦という特別推薦制度によって、この大学・短期大学に進学できるということである。言い換えれば、これによって、酪農学園の建学の精神である二愛精神による〔高校Ⅱ大学・短期大学一貫教育〕が受けられるのである。今年度は五三名が進学した。

進学におけるもう一つの特典は、キリスト教教育同盟加盟校なので、全国各地にあるキリスト教系大学・短期大学に、これまた同盟校特別推薦制度で進学できるということである。道内の北星学園はじめ、東京の明治学院大学、青山学院女子短期大学へは毎年卒業生を送っている。

### 進路状況

本校は、個性化、多様化の時代に対応して、普通科、英語科、酪農経営科という三学科があり、普通科は特進（特設進学）コース、進学コース、就職コースとに分かれていて、それぞれの教育課程によって、各人の特性や進路希望が実現できる。最近では、卒業生の七割余が進学、三割弱が就職希望である。近年は、国立大学にも毎年合格者を出している。

生徒は明るく健全で、クラブ活動（生徒会、

# 入試案内



酪農学園大学

大学院

北海道文理科  
短期大学

とわの森三愛高等学校

募集  
人員

酪農学部	酪農学科	165名	農業経済学科	130名
	食品科学科	105名	食品流通学科	80名
	獣医学科	120名		

入試  
日程

	出願期間(必着)	試験日	合格発表	試験地
推薦	11/7(月)~11/24(木)	12/4(日)	12/10(土)	本学・東京・大阪
I期(学力)	1/9(月)~1/25(水)	2/5(日)	2/15(水)	本学・帯広・盛岡・東京・大阪・福岡
II期(学力)	2/20(月)~3/9(木)	3/19(日)	3/25(土)	本学・東京・大阪

※入試要項は、送料共1,200円(現金・郵便小為替)。

募集  
人員

酪農学研究科	酪農学専攻(修士)	6名
	食生産利用科学専攻(博士)	2名
獣医学研究科	獣医学専攻(博士)	3名

募集  
人員

酪農科	140名
教養学科(女子)	90名
経営情報学科	100名

入試  
日程

酪農学園大学と同日程

※入試要項は、送料共1,000円(現金・郵便小為替)。

募集  
人員

全日制課程	普通科	300名
	英語科	40名
	酪農経営科(男子)	45名

入試  
日程

	科	出願期間(必着)	試験日	試験地
推薦	酪農経営	12/19(月)~1/17(火)	1/23(月)	本校・釧路・北見・東京
一般 (学力)	普通	1/27(金)~2/15(水)	2/22(水)	本校
	英語		2/23(木)	
	酪農経営		2/22(水)	本校

短期大学は少なく、北海道内でも本大学と医療・看護系の大学・短期大学数校に留まった。  
来年度の入試  
本学では来年度の受験生確保に向けて、三つの入試制度の改革を実施する。

さんが酪農大卒業生で、良いところだと紹介された」、「担任の先生が酪農大卒の方で、ぜひ自分も先生と同じ大学に進学したい」等々の声を聞くことが多く、あらためて、同窓生皆様の本学に対する深い思いに感謝する次第である。  
今後とも、同窓生、学園関係者皆様の本学への変わらぬご支援、ご協力をお願いしたい。

農業クラブ、ボランティアも)に打ち込んでい  
る。  
酪農経営科は、学校統合後も、伝統を受け継いで、後継者が圧倒的で、その上進学者が多い。  
同窓生は卒業学校・学科(高等学校を含む)及び卒業年度(期)を明記のうえ、請求してください。入試要項を無料で送ります。



## 食品科学科の

## 現在と今後

食に関しバイオテクノロジーの活用や、機能性食品の開発、加工、品質保全など、食生産の広い分野に取組み、二一世紀のニーズに応え、高度な専門性の高い教育研究を行うため一九八八年に開設された。

我が国初の学科として誕生した本学科への評価は年々高まっており、これまで受験者数の増加傾向が続いていることから、食に関わる社会のニーズに適切にこたえていることがわかる。一九九一年度から第一期の卒業生を社会へ送り出しているが、本学の特色である実学を主とした教育内容への評価も高く食品業界をはじめとし各界からも幅広く求人があり、注目を集めている。

これらの背景として、卒業と同時に「食品衛生管理者」、「食品衛生監視員」の任用資格が得られること、教職課程の教科目を修得することにより「中学I種(理科)、高校I種(理科・農業)教員免許」

の取得が可能であること。さらに「農業改良普及員」、「生活改良普及員」、「毒物劇物取扱責任者」の受験資格も併せて取得出来ることなど、専門的でしかも多様なスペシャリストの育成が行われることが大きな理由と考えられる。



本学科は、当初入学定員八〇名で開設したが社会のニーズに一層応えるため、一九九〇年より臨時定員増四〇名を加え一二〇名の入学定員とした。今年度より食の加工、流通、消費に至る教育・研究を行うために「食品流通学科」が開設され、これに伴い入学定員は

一〇五名となったが、今後関連学科間の連携による幅広い教育・研究の展開が期待されている。

また、本学科を含む酪農学科、農業経済学科を基礎とした大学院酪農学研究科に、従前の「酪農学専攻修士課程」に加え一九九一年には、「食生産利用科学専攻博士課程」が開設され、食に関わる教育研究の高度化と充実を図ってきた。

これは、本学科の特性を生かした専門性を十分に発揮し、社会ニーズに即したより専門性の高い人材育成を可能とするもので期待されているものである。本学大学院教育は食のスペシャリストを育成するため、社会的にも期待が大きくなり、特に本学科のもつ実践的科学研究と教育の成果が生かされているものといえよう。

一方、近年の社会における国際化の進展は目をみはるものがあり、本学科でも、これに積極的な取り組みを行っている。これまでの中国・韓国からの研究員の受入れに加え、ブラジル・ネパールなど受入国も広がり、実学研究による技術の習得が熱心に行われている。現在、全地球的テーマの一つとな

った食に関する関心はより高まり本学科へのニーズはアジア圏を中心に次第に強まり、受入体制の一層の充実が望まれているところである。

このように本学科は開設以来、その設置目的・趣旨が十分生かされて、きめ細かい教育研究が展開されてきたが、

人類の安全と福祉に関わる食の課題は多く、現在の社会状況変化は激しく、社会的ニーズも多様化している。

今後、社会との接点を広く持ち、実学を中心とした実践的学科として高度な専門性を進展させることが重要と考えている。

また、社会に出られた卒業生の活躍を期待するとともに直接、間接をとわず学

科としての支援体制を整えるなど課題は多いが、卒業生、同窓生の皆さんの力をお借りしながら、一層の学科発展を目指し努力したいと考えている。本学来訪の折には是非各研究室にお立ち寄りいただき、学生を励ましていただければ幸いである。





# とわの森三愛高等学校

汗と涙と笑い

「三愛維新」

今年度の学校祭は、七月八日の  
仮装行列を皮切りに、九日、ステ  
ージ発表、一〇日は、一、二〇〇



▲学校祭 仮装行列

の学校生活の良いテーマともなる  
であろう。

**熱い夏・全開**

**全国高校総体で活躍**

今年の暑い夏は、各地区大会、  
全道大会を勝ち抜いた、本校スポ  
ーツクラブ、バスケットボール(女  
子)ソフトテニス(男女)バドミ  
ントン(女子)空手道(男子)の  
チームおよび個人の二五名が、全  
国高校総体・富山大会に、北海道  
代表として、出場し、持ち前の若  
さと情熱を余すことなくぶつけ、  
燃え尽くしてきた。特に、バスケ  
ットボール女子は、第一回戦で徳

人ほどの一般の方々を迎えて、ス  
テージ発表、展示、そして、例年  
の取りくみである「緑志園」「恵明  
園」の方々と楽しい一時を過ごす  
ボランティアと多彩なプログラム  
が展開されました。生徒会の最大  
の行事としているこの行事は、生  
徒のアイデアと団結と活動の中に  
生まれる、汗と涙と笑いが互いの  
信頼と自信となって大きく成長す  
るところにねらいがある。テーマ  
「三愛維新」は、生徒たちの今後



▲女子バスケットボール

島城北高校 第二回戦でも新潟長  
浜高校に勝ち、全国ベスト一六に  
入った。

空手道では、村山君(普通科二  
年)が男子型の部で準決勝進出を  
果たした。年々出場数も増えてい  
ることは、本校の元気を物語っ  
ている。

**文化の秋をさわやかに**

九月六日、STV放送の「どさ  
んこワイド」でおなじみの星沢幸  
子氏を講師としてPTA主催文化  
講演会が行われ一般市民も多数参  
加して有意義な一時が持たれた。



▲文化講演会

**アジアの中で平和を考える**

今年の平和週間は特に「満蒙」  
に視点を据えて行われた。戦後五  
〇年をいかに迎えるか。忘れては  
ならぬ事柄の掘起しを願った。

テーマは「新機軸」

夢を追う男たち

酪農経営科の収穫感謝祭は農業  
クラブと寮生会が連携して九月二  
日、前夜祭(恒例ジンギスカン)  
二二・二三日にわたって遠来の父  
母を迎えて行われた。講演会は先  
輩で農業改良普及員として活躍中  
の西海豊顕氏を講師として招いた。

**酪農経営科の近況**

— 今に生きる機農魂 —

酪農経営科は、酪農学園におけ  
る実学教育の先駆けを成した「機  
農学校」の教育理念と伝統を今に  
引き継ぐ学科である。

在校生一二〇名は、全員寮に宿  
泊し、規律正しい生活と継続的な  
農場実習を背景とする教育のプロ  
グラムが体系的に展開されている。

一・二年次は、朝夕の農場当番  
に加え、情報処理や生物学基礎  
を含む教科ごとの実験実習がカリ  
キュラムにきめ細かに組みされてい  
る。三年次は、課題研究、農家委  
託実習および海外酪農研修旅行を  
必修させる等、生徒の総合力と実  
践的意欲を培うとともに、いわゆ  
る「機」を捉える力を養う試みが

農クの技術発表、農作業運動会な  
ど楽しく有意義な行事となった。

**アジア学院との**

**国際交流**

九月二日、アジア学院よりイン  
ドをはじめ四ヶ国の方々が来校さ  
れ、英語科との交流がなされた。  
なかでインドの舞踊も披露され楽  
しいひとときとなった。

多角的に展開されている。

在校生の八五%が農業の後継な  
いしは新規就農を目指し、全国各  
地から目的意識をもつて集い切磋  
琢磨する若者の城でもある。また  
昨今の入学者は、機農高校をはじ  
めとする学園OBの子弟が多くを  
占めるようになり、まさに卒業生  
諸氏の支援と揺るがぬ基盤の上に  
存立する学科、と言っても過言で  
ない。

二学期を迎え、早朝の牛舎実習  
も一巡した一年生は一段と逞しく  
見え、二年生は農業クラブや生徒  
会活動の中核としてリーダー性を  
示しはじめています。三年生は、酪  
農研修旅行の準備や課題研究のま  
とめ、更には進学に備えるハード  
なプログラムに取り組む今日この  
頃である。



## 同窓会だより

## 機農高校一〇期同期会

六月四日、定山溪にて元講師道見、半田の両氏を招聘、当時の機農魂と実学教育を省み、改めて建学の教育理念について学習会が出来、感慨無量の感を深くした。

## 短期大学五期同期会

五月二八日、定山溪で学習講座を開催、本学より原田、土橋の両先生を招聘し、本学の建学精神を振り返って、社会生活四〇年によさわしい生涯教育学習会がであつて、また先生方との忌憚のない交換会ができ有意義に終了した。



## 獣医学科八期生

## 学習研修会

七月二三日、本学獣医学科会議室において、各先生方との研修交流等を行い職業教育学習の役割を果たす事が出来た。同窓生は計画的に本学との技術交流を図るとともに学科との絆を強めている。



## 三愛女子高校

## 一一期同期会

六月一八日、札幌にて開催同窓生九〇名、旧現教職員一五名が出席、グループによる学習討議、続いて全体学習と交流が図られ有意義に終了した。

来年は「一二期同期会」を開催します。



## 栃木県支部同窓会

七月八日、那須塩原温泉にて開催、本学より牛島学園長、同窓会連合会より高橋会長、戸水関東支部事務局長が出席、同窓会活動とその使命についての学習会と忌憚のない意見交換が交わされた。

## 新潟県支部同窓会

八月五日、新潟市にて同県在住同窓生による学習会を開催、本学より平尾学長、阿部獣医学科長が出席、本学と同窓会活動についての学習と交歓会を行った。今後の活動の実践に期待したい。

## 貴農同志会だより

去る一〇月一日、江別市野幌町にて第一回総会を開催。総会は、物故者への黙祷が行われた後、審議が行われた。この中で、本会の所在を明確にするため、名称を「酪農学園貴農同志会」に変更したい旨諮られ、承認された。また、同会の顧問に佐藤名誉理事長、遊佐理事長、牛島学園長が推戴され、承認された。総会後は、懇親会が行われ、久々の再会に話は尽きなかった。



## お願い

終身会費をお納め頂いていない方には、本会の主旨をお汲み取り頂き、ご送金方お願い致します。

## 《振込み先》

北海道拓殖銀行・江別支店  
普通口座 三〇九二三九七  
貴農同志会会長 山下正亮  
問い合わせは、  
総務課 ☎〇一一三六六一一二

## 酪農DAIRY JOURNALジャーナル

酪農家のニーズに応える活きた情報を  
ダイレクトに発信しています。

- ・ A 4 判変型 88頁・年間購読料20,380円 (臨増刊、送料含む)
- ・ 申し込み先=酪農学園大学エクステンションセンター

〒069 北海道江別市文京台緑町582 ☎011-386-1116 FAX011-387-2805